

観光と地域交通に関する研究会 概要と論点・課題

金沢大学 武田公子

研究会開催状況①

【第1回】 2019年1月29日 全般的な意見交換

【第2回】 2019年3月1日

- ① **大井委員報告** 情報提供のあり方（SNS, ホームページ、紙媒体等）／新幹線開通に伴う在来線の機能低下、バス旅行開発の重要性（九州事例）
- ② **三重野氏報告** グリーンスローモビリティの多様な活用場面（足弱者、狭小・傾斜路、環境保全等）、運営主体としてのDMO、自家用有償運送の制約

【第3回】 2019年4月23日

- ① **久保委員報告** 多様な情報源とプラットフォームの必要／多様な連携形態（フリーパス、広域周遊、コース開発等）と連携主体（電車・バス・タクシー、観光協会、商店街、自治体）
- ② **生野委員報告** 湯布院P&R実験の教訓。生活者、土産物屋、タクシー業者等の利害不一致

研究会開催状況②

【第4回】 2019年7月30日

- ① **松本委員報告** ローカルレベルの観光型MaaSアプリ（バス検
索、予約、クーポン）／空港から観光地への直行バス路線（東
北事例）／定期観光バス、観光誘致のための高速バス（茨城、
会津等事例）、復興ツーリズム
- ② **清水委員報告** ローカルプラットフォームによるビッグ
データ事業の可能性／域内ロジスティクス（小ロットの農産物
の食糧需給マッチング）と観光・地域振興

【第5回】 2019年11月11日

- ① **加藤委員報告** 生活と観光交通の共生／「一見さん」目線の
案内表示。ターゲットの明確化と訴求力の洗練化必要
- ② **村尾委員報告** 丹鉄ファインド・鉄道ビジネススクールの事
例バス・車両デザインの工夫（北近畿タンゴ事例）
- ③ **後藤氏報告** 観光需要喚起による地域交通活性化の成否。有
力観光地での観光消費の域内移転／公共交通マーケティング研
究会における交通事業者間の連携、交通側と観光地側の協働

【第6回】 2020年3月2日 報告書と出版企画について

論点①MaaS向けプラットフォーム構築

- ローカル／リージョナルレベルのプラットフォーム構築はすでに個々に試みられている
- 全国版プラットフォームビルダーは誰か？
 - ローカル/リージョナルのプラットフォームを相互にリンクさせるところから：共通フォーム
 - グローバルなICT企業か公益的団体か？
先行するG社 事業者が自ら情報登録
地図情報の活用
 - 他方で行政データのオープンソース化が求められる
(バス停、路線等許認可官庁がもつデータ)

論点②担い手づくりと連携・利害調整

- DMOへの期待
 - 株式会社化すると自家用車有償運送は不可に？
 - 力量の地域差。過度な期待は・・・
- 各種ステークホルダー間の利害調整
 - タクシー業界との協働が最大の課題？
 - 結局「地域公共交通協議会」は機能していないのか？
- 多元的連携：地域間連携と分野間連携
 - 観光圏・周遊圏での連携関係
 - 交通事業者、観光業界、商店街、六次産業団体 等
- 深刻化する人材不足
 - 大型・二種免許に関する特例はあり得るか
 - 移住人材に資格取得支援を
 - 自動運転は人材不足問題を解決しうるか？
- * 行政の役割
 - 財源確保：過疎債、特別交付税、基金の活用
 - 分野横断的なネットワークづくりとコーディネート

まだまだ課題あり . . .

- オーバーツーリズム
- インバウンド重点化のリスク（新型肺炎騒動が示唆するものは？）
- 自動運転等新たなモビリティの社会実装
- 地域交通の採算困難
 - いずれにせよ公的な費用負担は不可避
 - 生活交通と観光交通のWTPの相違も一考

*そもそもポスト/ウィズコロナ時代の「観光と公共交通」のイメージは？